

# 第3学年体育科学習指導案

日時 令和元年9月10日(火) 4校時  
場所 体育館  
児童 男子8名 女子7名 計15名  
指導者 教諭 藤原 未来

1 単元名 「みんなでチャレンジ跳び箱運動」  
B 器械運動 ウ 跳び箱運動

## 2 構想表

### 指導について

#### 手立て1 学習内容に迫る課題設定の工夫

できる技をより上手にできるようにし、できそうな技、新しい技に挑戦して跳び箱運動を意欲的に取り組み、楽しむことが大切であると考え。そのために、児童にとって「何を学ぶのか」「どこに気を付けるのか」を気付かせるような課題の設定を考える。

#### 手立て2 コツやポイントを見つけるための発問や人数編成の工夫

発問の工夫

跳び箱運動は「できる」「できない」がはっきりした運動なので、技のコツやポイントが分からなければ楽しくない運動になってしまう。そのため、行い方を理解し技能を身に付けるためには、児童が運動に取り組む中で、コツやポイントを見付けることができるように、それらを探す際の視点を焦点化した発問をしていく。

3人組による学び合いの充実

人数編成については、3人でグループを作ることにより、自分以外の2人の友達から自分のできばえを的確に見てもらえることができる。器械運動は、自分で運動している姿が自分自身では見るのが難しいので、3人で組むことで技能ポイントについて、よりしっかりと見合うことができる。グループの友達に見てもらいながら「できた」「できなかった」ことを伝え合い、友達の言葉を聞くことで「わかった」につながるようにする。

#### 手立て3 視点をはっきりさせ、次時へとつながる振り返りの工夫

毎時間、児童がどのように学習することができたかを振り返ることができるように、取り組んだ結果を◎○△で記録し、到達度が確認できるようにする。

### 児童について

体育を苦手としている児童が若干いるが、男女共に体育が好きな児童が多い。また、運動を楽しんでいる児童も多い。休み時間になると、サッカーやドッジボール、鬼ごっこをして遊ぶことが多い。

アンケートを実施したところ、跳び箱運動が好きと答えた児童は11名であった。理由は、「跳ぶのが楽しいから。」「高い段を跳べるようになったから。」であった。嫌いだと答えた児童は4名で、理由は「跳べないから。」「落ちたらこわいから。」であった。跳び箱運動に恐怖心をいだいたり、技のポイントが押さえきれいなくなったりする実態が伺える。また、今後できるようになりたい技には、台上前転が挙げられていた。

事前にどの程度跳び箱を跳べるのか試してみたところ、開脚跳びは2段までが1名、3段までが1名、13名の児童が5段まで跳ぶことができた。

「嫌い」や「苦手」などの思いが、少しでも「好き」や「得意」に変わるきっかけ作りを授業の中でしていきたい。

### 教材について

跳び箱運動は、切り返し系・回転系などの技に取り組み、できるようになる楽しさや技のできばえを楽しむことができる運動である。また、新しい技やできそうな技・上手になりたい技に挑戦して、できるようになったり、より上手になれたりすることが楽しい運動である。

児童は、運動の中でできなかった技ができるようになったり、上手にできるようになったりしたときなどに楽しさを感じている。また、技の達成には友達との関わりが大切になるので、補助してもらったときや、声をかけてもらったときなどに楽しさを感じることができる。

しかし、練習してもできない場合、挑戦意欲をなくしたり、技を間違えたりすると身体を痛めたり恐怖心をもったりするなど、器械運動嫌いになることも多い運動である。

本単元では、3人組による集団跳び箱にも取り組んでいく。集団跳び箱を取り入れることで仲間と運動の楽しさを共有することができ、児童が楽しむことができるとともに、集団的達成を味わうことができる教材になると考える。

### 3. 単元の目標・評価規準

#### (1) 目標

- ・ 繰り返し系や回転系の基本的な技の行い方を知るとともに、その技を身に付けることができるようにする。  
(知識及び技能)
- ・ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。  
(学びに向かう力、人間性等)

#### (2) 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
跳び箱運動の評価規準	・ 繰り返し系や回転系（開脚跳びや台上前転）の基本的な技の行い方を知るとともに、その技を身に付けることができる。	・ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	・ 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
学習活動に即した評価規準	①開脚跳びや台上前転の技の行い方が分かる。 ②開脚跳びや台上前転を行うことができる。	①練習の仕方を知り、自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための練習の場を選んでいる。 ②技のポイントやコツについて考え、友達に伝えている。	①基本的な技に進んで取り組もうとしている。 ②器械・器具の準備や片付けを安全に気を付けて、協力して行おうとしている。

### 4. 単元の指導計画（7時間扱い）

時間	1	2	3	4 本時	5	6	7
	オリエンテーション	開脚跳び	台上前転			練習	発表会
学習の流れ	0	1 準備運動	1 用具の準備				
	10	2 オリエンテーション ・跳び箱運動のきまりや学習の進め方を知る。 ・基礎となる動きを試してみる。 ・技の名前を知る。	2 跳び箱セットメニュー うさぎ跳び かえるの足打ち 手押し車 丸いす跳び 前転 ステージ上への開・閉脚跳び ステージ下への前転 壁倒立		3 課題確認		
		4	4 開脚跳び, 台上前転の練習をする。	4 自分の課題に合った場で, 練習する。		4 練習	4 発表会
40	3 振り返り	5 集団演技練習					
		6 まとめ・振り返り					
評価計画	知・技	①ノート	①観察	①観察 ②観察（開脚跳び）		②観察	②観察
	思判表				①②観察	①②観察	①②観察
	主	①②観察 ノート					①②観察ノート

## 5. 本時の指導

### (1) 目標

- 練習の仕方を知り、自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための練習の場を選ぶことができる。  
(思考・判断)

### (2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 □評価 ◆手立て
導入 7分	1. 用具の準備 2. 跳び箱セットメニュー うさぎ跳び カエルの足打ち 手押し車 丸いす跳び 前転 (セーフティーマット) ステージ上への開・閉脚跳び 開脚跳び またぎ支持渡り・ジャンプ ビール跳び箱 壁倒立 3. 課題確認 自分の力に合った場所で練習しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとにローテーションで行う。</li> <li>音楽を使う。〔運動55秒、移動5秒(音なし)〕</li> </ul> <p><b>◆できるようにするためにどんな練習をすればよいかを意識させる。(手立て1)</b></p>
展開 31分	4. 課題解決・練習 ①開脚跳び ②台上前転 <ul style="list-style-type: none"> <li>どの場から練習をするか、グループで決める。</li> <li>自分の課題に合わせて場を変えながら、グループで練習したり、技を見合ってアドバイスをしたりする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>セーフティーマットで前転</li> <li>積み重ねたマットで前転</li> <li>低い跳び箱(2段)で前転</li> <li>ステージの上から前転して下りる</li> <li>3, 4段の跳び箱で台上前転</li> </ul> </div> 5. 集団跳び箱の練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで規定演技を選び、グループで練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開脚跳びは、習熟を図るために行う。</li> <li>どの課題が、どの場に合うのか、示しておく。</li> </ul> <p><b>◆横と正面から技を見合い、アドバイスをしたり、良いところを見付けたりする。(手立て2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手を着く位置に目印を付けておく。</li> <li>踏み切る場所に目印を付けておく。</li> <li>腰の高さを意識させるようにする。</li> </ul> <p>□自分の力に合った課題を見付け、練習の場を選ぶことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>規程演技を示しておく。</li> </ul> 規程1. ビール跳び箱 縦跳び→横跳び→横跳び→ポーズ 規程2. ビール跳び箱 縦跳び→斜め跳び→斜め跳び→ポーズ 規程3. 跳び箱 シンクロ開脚跳び(台上前転)→前転→ポーズ 規程4. 跳び箱 連続開脚跳び(台上前転)→前転→ポーズ
終末 7分	6. まとめ・振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>分かったところ、上達したりできるようになったりしたこと、友達のがんばりについて、体育ノートに記入する。</li> <li>次時の内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の課題にそった振り返りと、活動の中で分かったことなどを書かせる。</li> </ul> <p><b>◆できるようになったことや友達の良いところを見付けている児童を意図的に紹介し、全員で共通理解をする。(手立て3)</b></p>

(3) 場の設定

